

国際宇宙探査における科学探査の 位置づけに関する 今後の検討の進め方

令和元年(2019年)10月1日
宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所長
國中 均

第31回宇宙科学・探査小委員会(2019年9月5日)における主なご意見

- ✓ 宇宙科学・科学探査が、国際宇宙探査にどのように貢献するのか、国際宇宙探査の機会をどう活用できるのか、といった国際宇宙探査における宇宙科学・科学探査の位置付けについて、議論が必要ではないか。
- ✓ 火星や火星以遠の探査まで見据えながら、日本として何に取り組むべきか、国際宇宙探査の機会をどう活かすのか、といった課題や、科学的な意義についてもISASとコミュニティが協力して整理し、宇宙基本計画改訂の議論にも反映していく必要があるのではないか。

検討の進め方

- 惑星科学全体による将来計画検討の結果・経緯を踏まえ、惑星科学コミュニティと議論し、宇宙科学研究所として意見集約する。
- 国際宇宙探査専門部会の下で、分科会として検討チームを編成。

検討内容

以下の観点で20年先を見据えた当面10年を考慮し検討を進める。

- 工学理学の連携
 - ✓ 深宇宙進出の観点から月探査においても活用が見込まれる超小型機のシナリオの構築。
- 工学
 - ✓ 月面探査・深宇宙進出の観点からのGateway活用・月水資源活用の整理。
- 理学
 - ✓ 月全球へのアクセスが可能にする惑星科学の展開。
 - ✓ Moon- to- Marsへの観点からの月面探査計画の整理・活用。

今後のスケジュール（案）

- 10/1 宇宙科学・探査小委：今後の進め方について
- 10/8 日本惑星科学会
- 10/25 宇宙科学・探査小委：本件の進捗報告①
- 11/25 宇宙科学・探査小委：本件の進捗報告②
(12月中 最終報告のとりまとめ)
- 1月 宇宙科学・探査小委、基本政策部会等への報告